学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	地域観光産業Ⅱ		（ NGH13L ）
講義名（コード）	地域観光産業ⅡA		（ NGH13LA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本のしきたりや四季を通じて観光業の仕組みを理解できるようにする
全体の内容と概要	観光業を深掘りし、内容を理解する
授業時間外の学修	日本での生活を通じて、日本の「楽しい」を観光事業に結びつける
履修上の注意事項等	授業中での言語は原則日本語で実施するため、ヒアリング出来る程度の日本語学力が必須

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率60%以上で期末試験受験者を対象とする			
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	人はなぜ観光をするのか 理解できる	観光をする理由や目的を考える
2	観光の役割と効果を理解できる	観光ビジネスについて役割と効果を理解
3	観光プランを 考えることができる	インバウンド需要に向けて、観光プランを考える
4	観光プランを発表できる	考えた観光プランを発表する
5	県別観光調査ができる①	47都道府県別の観光を調査し、資料にまとめる
6	県別観光調査ができる②	資料にまとめた観光内容を発表する
7	県別観光調査ができる③	同上
8	日本のしきたりを理解できる	日本人のしきたりを知る
9	年中行事を理解できる	年中行事を知る
10	ハイテクトイレを 知ることができる	日本のハイテクトイレについて、観光とどういう結びつきがあるか
11	日本の衣替えを理解できる	日本の四季の楽しみ方（観光・服装・履き物）
12	組紐を体験できる	<ワークショップ> 日本伝統工芸の組紐をし、紐を作る
13	テスト勉強ができる	テスト勉強をする
14	テストを受けることができる	テスト実施
15	フィードバックができる	半年を振り返って授業の感想を報告

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	日本のしきたり、LIXIL WEBサイト
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	レストランサービスⅡ		（ NGH13B ）
講義名（コード）	レストランサービスⅡA		（ NGH13BA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	小澤　ゆみ	時間数	30
成績評価教員	小澤　ゆみ	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	レストランサービスの実践を通し、敬語を使ったサービスができるようになる 衛生管理や調理・緊急時の対応などの知識を持った専門性のあるサービスができるようになる
全体の内容と概要	フランス料理サービスを理解し、敬語を使ったサービスを実践する 特定技能1号外食業のテキストのうち、衛生管理・飲食物調理の内容を含む知識を学習する
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	レストランの部門ごとの仕事 について理解することができる	ホテルのレストランにおける部門ごとの仕事と役割について知る
2	レストランの衛生管理の知識 について理解することができる	食中毒の基礎知識・食中毒予防4原則・細菌やウイルスについて知る 食中毒予防のための一般衛生管理について知る
3	レストランの衛生管理の知識 について理解することができる	調理器具の洗浄・消毒・殺菌、従業員の健康管理等について知る HACCPの考え方による衛生管理について知る
4	飲食物調理の知識 について理解することができる	調理について基本的な材料・調理方法・調理器具について知る
5	飲食物調理の知識 について理解することができる	調理場における労働安全・調理機器の扱い・火災防止について知る
6	サービススタッフの基本技術 を実践することができる	ワインのサービスについて知り、実践する
7	サービススタッフの基本技術 を実践することができる	ワインのサービスを実践する　/　実技テスト
8	サービススタッフの基本技術 を実践することができる	実技テスト　/　敬語ワーク
9	サービススタッフの基本技術 を実践することができる	アレルギー・配慮が必要なお客様の対応について知る 体調不良者の対応・災害発生時の対応について知る
10	サービススタッフの基本技術 を実践することができる	席次の必要性・席次の基本的な知識を知る 洋食レストラン・会議室・エレベーター・車の席次について知る
11	サービススタッフの基本技術 を実践することができる	レストランの基本的な配席・効果的な配席について知り、実践する
12	敬語を使ったサービス を実践することができる	レストラン予約について、敬語でなんと言うか考え、実践する
13	敬語を使ったサービス を実践することができる	レストラン予約を正しく記録し、必要な配慮を考え配席や席次を決める
14	まとめ	後期期末テスト（筆記）
15	まとめ	テストフィードバック

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	「飲料サービスの教科書」NPO法人日本ホテルレストラン経営研究所刊 特定技能1号外食業技能測定試験学習用テキスト【接客全般】【飲食物調理】【衛生管理】
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ホテルサービスⅡ		（ NGH13D ）
講義名（コード）	ホテルサービスⅡA		（ NGH13DA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	髙木　裕衣	時間数	30
成績評価教員	髙木　裕衣	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ホテル内の業務について知り、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	宿泊業界・おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ルームサービスの業務の流れを理解できる	<第5課>ルームサービスの仕事を理解しながら、オーダーを受ける時の表現を知る。
2	注文を受けて料理を届けることができる①	<第5課>ものの数え方の確認。基本問題で表現を再確認し、口頭練習を行う。
3	注文を受けて料理を届けることができる②	<第5課>動画を見て、実際の動きを確認しながらロールプレイを行う。
4	コンシェルジュの業務の流れを理解することができる	<第6課>コンシェルジュの仕事を理解しながら、お客さまからのお問い合わせにお応えする時の表現を知る。
5	お客さまの要望に丁寧に対応することができる①	<第6課>基本問題で表現を再確認し、テキストにあるお店の場所を案内する練習をする。
6	お客さまの要望に丁寧に対応することができる②	<第6課>基本問題で表現を再確認し、自分のおすすめのお店を紹介する練習をする。
7	チェックアウト時のフロントの業務を理解することができる①	<第7課>チェックアウトの流れを理解しながら、その際に使う表現を知る。
8	チェックアウト時のフロントの業務を理解することができる②	<第7課>基本問題で表現を再確認し、テキストにある例でチェックアウトの練習をする。
9	フロントでチェックアウト業務をし、お客さまをお見送りすることができる	<第7課>実際の場面を想定し、チェックアウトのロールプレイを行う。
10	クレーム対応の流れを理解することができる	<第8課>お客さまとしてのクレームとホテルスタッフとしてのクレームについて考えたうえで、クレーム対応の基本の流れを確認する。
11	クレームに対して誠実に対応し、お客さまに満足してもらうことができる①	<第8課>クレーム対応時に気をつけることを確認し、基本問題でクレーム対応の練習をする。
12	クレームに対して誠実に対応し、お客さまに満足してもらうことができる②	<第8課>動画を見て自分ならどう対応するかを考え、良い点、足りていない点のフィードバックを行う。
13	後期で学習したことを確認し、実践できる。	筆記テスト
14	後期で学習したことを確認し、実践できる。	実技テスト①
15	まとめと解説	実技テスト②　/　フィードバック

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ホテルの日本語
参考文献・資料等	マナー＆プロトコールの基礎知識
備考	テキスト補助教材の動画を視聴し、実際の場面を想像ながら練習を行う。

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ホスピタリティマインドⅡ		（ NGH13F ）
講義名（コード）	ホスピタリティマインドⅡA		（ NGH13FA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	中村　真衣	時間数	30
成績評価教員	中村　真衣	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	サービス業で必要なおもてなしの力を身につけ、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	お客さまの不満そうな様子を察して声をかけ、話を聞きだすことができる	＜第6課＞傾聴について学び、お客さまの話を聞く姿勢を実践する。
2	お客さまのクレームを傾聴し、丁寧に謝ることができる	グッドマンの法則について学び、クレーム対応のロールプレイを行う。
3	お客さまの要望に応えられなくても代案を立て、お客さまに理解してもらうことができる	＜第6課＞の復習(まとめ問題) ＜第7課＞実際の場面を想像して、「代案」を考える練習をする。
4	お客さまのあいまいな要望に対して確認し、いくつか提案することができる	CS、CDについて学び、 お客さまに満足していただけるような「提案」を考える。
5	お客さまの要望に応えられない時、誠実に断り、代案を立て応対することができる	＜第7課＞の復習(まとめ問題) ＜第8課＞お客さまの要望に応えられないときの応対方法を考え練習する。
6	お客さまのクレームに対して誠実に謝り、迅速な対応ができる	お客さまへの謝罪の方法について学び、実際の場面を想像して ロールプレイを行う。
7	席次を理解することができる	席次について学び、案内の方法を考える。 ＜第8課＞の復習(まとめ問題)
8	後期で学習したことを確認し、実践できる	第6課～第8課の復習をし、テストに向けて練習する。
9	後期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト①
10	後期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト②
11	後期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト③　/　フィードバック
12	1年間学習したことを思い出し、サービス接遇検定の問題を解くことができる	サービス接遇検定の問題を解く。 なぜその答えになるか理由までグループで話し合いをする。
13	1年間学習したことを思い出し、サービス接遇検定の問題を解くことができる	サービス接遇検定の問題を解く。 なぜその答えになるか理由までグループで話し合いをする。
14	1年間学習したことを思い出し、サービス接遇検定の問題を解くことができる	サービス接遇検定の問題を解く。 なぜその答えになるか理由までグループで話し合いをする。
15	1年間のまとめ	この授業を受けてわかるようになったこと、できるようになったことを振り返り、今後どのように活かしていくか考える。

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	おもてなしの日本語
参考文献・資料等	マナー＆プロトコールの基礎知識　サービス接遇検定試験合格テキスト＆問題集
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	旅行業務Ⅱ		（ NGH13H ）
講義名（コード）	旅行業務ⅡA		（ NGH13HA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	株式会社ヤドロク	時間数	30
成績評価教員	株式会社ヤドロク	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	株式会社ヤドロク	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本国内の公共交通機関や様々な観光地の知識を得て、ツアーの造成をしてみよう。
全体の内容と概要	日本国内の魅力的な観光地の知識を深める　公共交通機関等の移動手段について知る
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期の振り返り	前期授業のおさらい
2	長野県の観光地について	長野県内の観光地について知る
3	長野県の交通網について	長野県内の交通手段について知る
4	長野県内の旅行商品を作る	条件を特定した上で観光地、宿泊地をつなぎ、旅行商品の下地を考える
5	長野県内旅行商品完成	長野県内1泊2日の旅行商品を完成させる
6	旅行商品完成発表会	各自作った旅行商品の発表
7	旅行商品完成発表会	各自作った旅行商品の発表
8	国内旅行商品を作ろう	各自決定した都道府県について調べる
9	国内旅行商品を作ろう	特定した観光地・宿泊施設等を公共交通機関でつなぐ
10	国内旅行商品を作ろう	特定した観光地・宿泊施設・公共交通機関の費用を算出しよう
11	国内旅行商品を作ろう	指定した日数や時間、費用について確認
12	国内旅行商品を作ろう	より魅力的な商品にするために
13	国内旅行商品を作ろう	旅行商品の完成
14	国内旅行商品完成発表会	各自作った旅行商品の発表
15	国内旅行商品完成発表会	各自作った旅行商品の発表

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	特に選定しない
参考文献・資料等	随時配布
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本観光地理Ⅱ		（ NGH13J ）
講義名（コード）	日本観光地理ⅡA		（ NGH13JA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	塚川　剛	時間数	30
成績評価教員	塚川　剛	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本の主要観光地理を学び、日本語や英語で簡単な紹介ができる。前期は、主要都市や各地方ブロック毎、後期は、各都道府県毎に学修する。観光業界で必要な基礎地理を学ぶ。
全体の内容と概要	日本の基本的な観光地理を学び、日本人旅行者のみならず、急増するインバウンド客にも日英両語で簡単な案内ができることを目指す。
授業時間外の学修	上田城を見学して、国宝の松本城や日本各地の名城、入場者が多いお城について理解する。真田幸村を通じて、戦国時代、サムライや忍者について学ぶ。
履修上の注意事項等	母国から友人や家族が長野県に来た時、どこを案内するかを発表してもらう機会を設ける。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期で学習した内容の振り返りができる。	前期の学習成果や日英語の上達度合いを確認する。夏休み中のバイト、帰国、卒業後の予定について話してもらう。
2	都道府県の位置と名前を言える（①）	北海道、青森、岩手、秋田、福島、山形を学習する。
3	都道府県の位置と名前を言える（②）	東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木を学習する。
4	都道府県の位置と名前を言える（③）	新潟、長野、群馬、富山、石川、福井を学習する。
5	都道府県の位置と名前を言える（④）	愛知、静岡、岐阜、三重、滋賀、奈良を学習する
6	①～④を概略できる。	東日本の県庁所在地、大きな都市、有名な観光地を覚える。
7	都道府県の位置と名前を言える（⑤）	大阪、京都、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口を学習する。
8	都道府県の位置と名前を言える（⑥）	香川、愛媛、高知、徳島、福岡、熊本、大分、長崎、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄を学習する。
9	⑤～⑥を概略できる。	西日本の県庁所在地、大きな都市、有名な観光地を覚える。
10	①～⑥を概略できる（A)	各都道府県及び日本全体の気候、地形や地理について学習する。
11	①～⑥を概略できる（B)	前週の復習をしながら、各都道府県及び日本全体の産業、歴史、周辺諸国との往来、関西大阪万博等イベントついて学習する。
12	①～⑥を概略できる（C)	日本国内の今後予想される観光地、期待されるスポット、観光業の光と影、オーバーツーリズム対策、人出不足等課題について学習する。
13	①～⑥を概略できる（D)	観光資源について学習する。（和食と日本酒焼酎、味噌、醤油、わさび、寿司、和牛、魚介類、漆器、日本刀、畳、侍、忍者、神社仏閣）
14	まとめとテスト	後期で学んだ内容を中心にしたテストを実施する。
15	フィードバック	試験用紙返却、成績や結果について講評、質疑応答など。

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	るるぶ地図でよくわかる都道府県大百科
参考文献・資料等	随時必要な資料をコピーして配布する。朝刊紙の中から観光関連記事を選んでペアあるいはグループ学習に活用する。（スキャニング等）
備考	随時必要な観光土産、グッズ、記念品、ゆるキャラ商品、レアリアを提示する。（例）最近、超人気の「ちいかわ」、長野県のアルクマ、千曲市のあん姫。

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	SNS		（ NKT13T ）
講義名（コード）	SNS		（ NKT13TX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	楢原 優輝	時間数	30
成績評価教員	楢原 優輝	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	SNS等を用いて自分の伝えたい情報を分かりやすく発信できるようにする
全体の内容と概要	自身でテーマを設定したり、決められたテーマに沿って制作した映像をオンラインにアップし分析・考察する
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

	評価	評価基準	評価内容
成績評価基準	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	映像の活用方法をそれぞれが見出し方針を決める	前期の動画マーケティングのおさらいと後期の方針の確認
2	SNSについて知識を深める	SNSとは
3	映像を制作する目的や方向を考えることに意識を向ける	映像のテーマを考えてみよう
4	メッセージが伝わる映像の組み立て方を考える	映像の構成を考えてみよう
5	決められた段取りに沿って動画を撮影することの重要性を理解する	制作(動画撮影)
6	決められたテーマや伝えたい情報を意識しながら映像を編集する	制作(動画編集)
7	考えた構成通りのものができているか、撮影素材の大切さを理解する	制作(動画編集~書き出し)
8	計画して制作した映像を観て流れを再確認する	発表・講評
9	指定された目的を達成する映像を制作するために企画・スケジューリングする	映像制作の依頼を受けてみよう
10	撮影に必要な機材やセッティングについて計画する	企画を進行する計画を立てよう
11	時間内に準備~撤収	制作(動画撮影)
12	役割分担する等、グループワークの練習	制作(動画編集)
13	映像をチェックし目的が達成されているか再確認する	制作(動画編集)
14	筆記試験・制作物提出等	期末テスト(制作物提出＋映像制作への理解度チェックのための筆記試験)
15	総評	テストフィードバック

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT15D ）
講義名（コード）	英語資格対策ⅡA		（ NKT15DA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野　恵	時間数	30
成績評価教員	高野　恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検準2級以上に合格する。
全体の内容と概要	準2級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単 」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	単語601~650 準2級の過去問題に挑戦する	自分の現在の実力を知り、後期に力を入れるべき箇所を知る。
2	単語651~700 / listeningの特徴がわかるようになる	英検listeningの特徴を知り、問題に取り組む。
3	単語701～750/聞き取れないところが聞けるようになる	過去問のlisteningに挑戦し聴きとれない部分を重点的に繰り返し聞く。
4	単語751～800 準2級の過去問題に挑戦する	準2級の過去問題集からの長文を解き、自分の弱点を知る。
5	単語 801～850 / 長文の読み方や出題傾向がわかるようになる	英検長文の特徴を知り、時間内に読む練習をする。
6	単語851~900 準2級の過去問題に挑戦する	後期最初の授業時と比較し、自分の進み具合を知り勉強法を考える。
7	単語901~950 / 作文の書き方が理解できるようになる１	文章を書く際の構成を学ぶ。
8	単語951~1000 / 作文の書き方が理解できるようになる２	与えられたトピックを使って自分の意見を書いてみる。
9	単語1001~1050 準2級の過去問題に挑戦する	listning・穴埋め・長文・作文を時間内に行う。
10	Speakingのテストの構成を理解することができるようになる	Speakingのテストの構成を理解し、どのように受け答えするかを学ぶ。
11	面接の練習をし、自信をもって受け答えができるようになる	面接の練習をする。
12	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストＦＢ

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検準2級でる順パス単、肘井学のゼロから英文法
参考文献・資料等	英検準２級過去問集（2025年度版)、英検準2級総合対策教本
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2024年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化理解Ⅰ		（ NKT15G ）
講義名（コード）	異文化理解ⅠG		（ NKT15GG ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内　玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内　玲子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	さまざまな国の文化・考え方を学んでお互いに教えあったり認め合うことができるようにする
全体の内容と概要	各国ごとの冠婚葬祭・ジェスチャー・社会問題などのテーマについて意見交換や発表などをする そうすることでお互いの文化の違いを教えあい、認め合うことができるようにする
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう
履修上の注意事項等	発表が多いので事前準備をしっかり行う事が重要です

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	異文化を理解する目的を改めて知る	それぞれの学科の学習目標を提示し、異文化を理解することの必要性、 異文化理解できていない場合どんなことがおきるかなども含めて学習する
2	異文化摩擦について理解できる	異文化摩擦の例を示したり、学生間で異文化摩擦の体験などもシェアしながら 異文化摩擦とはということについて学習していく
3	自分をふりかえることで、コミュニケーションがとりやすくなる方法を知る	グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、 異文化対応力について自分を数値的に理解する。
4	非言語コミュニケーションや パラ言語について理解し、考察する	アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、 パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する
5	様々な国での催事を知ることで その国の文化を理解することができる	学生を国ごとのグループに分け、 その国の催事について発表をするための準備をする
6	様々な国での催事を知ることで その国の文化を理解することができる	催事についての発表
7	様々な国の生活について わかるようになる	様々な国の人々の生活をビデオでみる（家、街中の様子、仕事、学校の様子、 休日の過ごし方など）各自興味がある国について調べてまとめる
8	様々な国の生活について わかるようになる	クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる
9	様々な国の生活について わかるようになる	自国の生活について国別に分かれて発表する
10	世界の衣食住の歴史について 知ることができる	日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオで見て、 自分の国と比べてみる
11	世界の衣食住の歴史について 知ることができる	自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる
12	世界の衣食住の歴史について 知ることができる	衣食住発表準備
13	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
14	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
15	まとめと解説	今までの授業を通じてのまとめ

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	グローバルな時代を生きるための異文化理解入門・日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション
備考	なし

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコンピューティングⅡ		（ NKT15J ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅡE		（ NKT15JE ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	宮原　祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原　祥子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期学習したWordの機能の活用を学習し資格を取得する
全体の内容と概要	日商PC検定BASICレベル受験対策を中心に学習していきます
授業時間外の学修	資格試験を受験する場合は、授業内容のほかにプログラムなどでくり返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ビジネス文書の基礎知識を理解	ビジネス文書とは・社内文書、社外文書の基本とちがい 資格試験概要紹介・自分の受験するレベルを決める
2	ビジネス文書作成の基本を理解	作成する文書の確認・文章の入力・編集・文字の配置、装飾・保存
3	表を活用したビジネス文書が 作成できるようになる	表の作成・レイアウト変更・文字の配置・書式設定
4	図形を活用した文書作成が できるようになる	図形の作成・図形に文字を入力・スタイル変更
5	あいさつ文問題対策 基本となる日本語力をつける	模擬試験 問題１ ショールーム開設のご案内・避難訓練実施のお知らせ
6	表問題対策 読み取りやすい表の作成を理解	模擬試験 問題２ 社内運動会開催のお知らせ・ワイン試飲会開催のご案内
7	オブジェクト問題対策 目的に合わせた図形の活用できる	模擬試験 問題３ 通信教育制度のご案内・新商品キャンペーンについて
8	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 （FOM出版問題集使用） 受験できる学生は随時検定受験 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	模擬試験プログラム　模擬１ 配置の設定・文字書式の変更，設定・定型文の入力・段落番号の設定・保存 表の配置設定・図形の装飾
9		
10		模擬試験プログラム　模擬２ 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存 表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定
11		
12		模擬試験プログラム　模擬３ 配置の設定・文字書式の変更，設定・段落番号の設定・保存・インデント設定 表の編集・図形の装飾，配置，文字の入力
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストＦＢ

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	日商ＰＣ検定BASIC公式テキスト・問題集　文書作成（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	資格試験対策として問題集・模擬試験プログラムを利用

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅡ		（ NKT15L ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅡD		（ NKT15LD ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	若林　繁実	時間数	30
成績評価教員	若林　繁実	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	・社会人として必要とされるマナーを習得する。・面接の流れを理解し、面接に向けての準備を整える。・志望する企業向けの履歴書を完成させる。
全体の内容と概要	・講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	・自身の興味のある企業に関するリサーチ（インターンシップ含む）
履修上の注意事項等	・主体性をもって、授業に取り組む姿勢

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	後期に学ぶことを理解し、主体的に取り組むことができるようになる	【オリエンテーション】後期に学ぶこと、2回目よりニュースの発表 【演習】後期学びたいことについてグループワーク、マンダラチャートの記入
2	学生時代に力を入れたことが書けるようになる	【講義】学生時代に力を入れたことについての書き方 【演習】これまでの学生生活で力を入れたことのエピソードを記入
3	内的キャリアと外的キャリアが理解できるようになる	【講義】自分の内的・外的キャリアを考える方法について 【演習】自分の内的・外的キャリアについて記入
4	未来史が作成できるようになる	【講義】死ぬまでにしたいこと、3・5・10・20・30年後の設計 【演習】死ぬまでにしたいこと、未来史の記入
5	気になる業界について調査できるようになる	【講義】業界について、業界の種類、周辺の業界について 【演習】気になる業界や周辺の業界について記入し、発表（２分/人）
6	志望する企業を選択し、分析ができるようになる	【講義】企業を選ぶ６つの視点を知り、志望する企業を選択【演習】志望する企業について、６つの視点で分析し、記入
7	競合他社について理解することができるようになる	【講義】志望する企業の競合を知り、調べる 【演習】競合他社について調べ、発表（２分/人）
8	志望する企業への志望動機が書けるようになる	【講義】志望動機の記入のポイント 【演習】志望動機の記入
9	履歴書の書き方を理解し、記入できるようになる	【講義】記入方法やポイントについて、エントリーシートとは 【演習】志望企業向け履歴書作成、提出
10	履歴書を完成させることができるようになる	【講義】訂正ポイント説明 【演習】志望企業向け履歴書訂正、提出
11	面接の基本が理解できるようになる	【講義】面接の基本、マナー 【演習】学生同士で練習/個別面談
12	面接のテクニックを習得できるようになる①	【講義】実際にあった面接の質問例の紹介 【演習】質問例の回答を記入/個別面談
13	面接のテクニックを習得できるようになる②	【演習】質問例を活用し、学生同士で面接の練習/個別面談
14	後期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック・まとめ	【後期試験フィードバック】試験のフィードバック、後期のまとめ

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅡ		（ NKT15L ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅡE		（ NKT15LE ）
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/観光ホスピタリティーコース グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	岩岡　夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡　夏子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会＆面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】講師紹介後期の内容について説明、心構え 【演習】進路調査　Cam-J　進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】インターンシップについての復習 【演習】インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】キャリア面談　応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる（1）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談　就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる（2）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談　就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる（3）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談　就職活動行動計画表作成
7	在留資格制度、申請について理解できる（1）	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
8	在留資格制度、申請について理解できる（2）	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
9	就職内定先企業への提出書類について理解できる（1）	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入　誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
10	就職内定先企業への提出書類について理解できる（2）	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入　誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。（1）	【研修】研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文　キャリア面談
12	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。（2）	【入社前研修】入社時書類、労働条件（給料、時間、休日、勤務地） 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文　キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。（1）	【日本の企業】１日、１か月、１年間の仕事の流れ 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文　キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【テスト】回収
15	まとめと対策	【テスト返却】フィードバックと解説 【振り返り】講義の振り返り、まとめ

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Webマーケティング基礎Ⅱ		（ NKT15N ）
講義名（コード）	Webマーケティング基礎ⅡB		（ NKT15NB ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	小笠原　あやの	時間数	30
成績評価教員	小笠原　あやの	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デザインの要素を整理し、わかりやすく相手に伝えるための基本的な手法を理解し、実践する。
全体の内容と概要	普段目にすることの多いDTP、WEB広告などを制作しながら、「色」「フォント」「画像」などその要素の役割、効果的な表現を学び、実践していく。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業内テーマへの参加態度並びに意欲も評価対象とする。□		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	チーム内で意見を出し合いながらながら協力することができる	《グループワーク》NBL祭のポスター作り
2	チーム内で意見を出し合いながらながら協力することができる	《グループワーク》NBL祭のポスター作り、発表
3	チーム内で意見を出し合いながらながら協力することができる	《グループワーク》体育祭のポスター作り
4	チーム内で意見を出し合いながらながら協力することができる	《グループワーク》体育祭のポスター作り、発表
5	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる。	自分自身のシンボルマーク（ロゴマーク）を作ろう
6	著作権の意味と内容について理解することができる	著作権について理解しよう
7	実例のデザインに触れ、効果を体感することができる	WEB広告の役割・実際の広告を探そう
8	実例のデザインに触れ、効果を体感することができる	テーマに合わせたWEB広告制作
9	実例のデザインに触れ、効果を体感することができる	テーマに合わせたWEB広告制作
10	予測できないからこそ生まれるアートを体験できる	1本の線から生まれるアート体験
11	デザインの役割や意味を理解することができる	《グループワーク》問題解決のための広告作り
12	デザインの役割や意味を理解することができる	《グループワーク》問題解決のための広告作り
13	デザインの役割や意味を理解することができる	《グループワーク》問題解決のための広告作り、発表
14	テスト	ペーパーテスト（1年間のまとめ）
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2024年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	検定対策Ⅱ		（ NKT15T ）
講義名（コード）	検定対策ⅡE		（ NKT15TE ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	竹内　玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内　玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	表計算ソフトExcelの基本操作・機能を習得し、実務への活用方法を学習する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 検定試験を目標に、操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	操作環境がない生徒がほとんどだと思いますので、メニューの操作方法、文字変換、数式の入力など テキストや授業時配布されたプリントで復習してください
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも学校で受験できます 就職活動に合わせて、資格を取得する計画を立てましょう

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Excelの基本操作を覚える 合計・平均の計算ができる	Excelの基本（新規作成・基本用語・入力・保存） 数式の入力方法
2	効率の良いデータの入力方法 ＳＵＭ関数を理解する	データ入力と関数（ＳＵＭ）
3	入力したデータの編集方法を 理解できる	表作成（書式設定、表示形式、配置、罫線、挿入・削除、上書き保存）
4	縦棒グラフが作成できる	グラフ作成（縦棒グラフの作成・編集）
5	オートフィルの活用 AVERAGE関数を理解する	オートフィル練習（テキストにないもの） 基本的なワークシートの編集（復習とＡＶＥＲＡＧＥ関数）
6	表作成に必要な機能を復習する	ワークシートの書式設定（表作成復習）
7	縦棒グラフ作成復習 円グラフを作成できる	グラフ作成（縦棒グラフ・円グラフの作成）
8	グラフ作成の機能の応用機能を 理解する	グラフの設定の変更（系列・種類・軸ラベル・複合グラフ作成）
9	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	表作成とグラフ作成　実習問題（縦棒グラフ・円グラフ） 伸び率の計算
10	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	表作成とグラフ作成　実習問題（縦棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ） 売上金額の計算
11	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	表作成とグラフ作成　実習問題 （折れ線グラフ・レーダーチャートグラフ）、SUM関数の応用方法
12	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	テスト範囲に合わせた練習問題１
13	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	テスト範囲に合わせた練習問題２
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	30時間でマスターWord&Excel2021・留学生のためのパソコン入門（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント、レベルに応じた資格試験の練習問題
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅡ		（ NKT15V ）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅡC		（ NKT15VC ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	田中　清夫	時間数	30
成績評価教員	田中　清夫	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本後能力試験N2の文法と語彙を学んでいく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	年間を通して必ず１度はJLPTを受験することを必須とする。未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自分の困った状況が説明できる1	文法（～きり、どころじゃない、ものの、ことに）語彙（文脈規定第１回）
2	自分の困った状況が説明できる2	文法（～にしては、ことか）、チェック、語彙（文脈規定第１２、１３回）
3	友達の話に共感して励ますことができる１	文法（～さえ～ば、ようがない、あげく）、語彙（文脈規定第１４，１５回）
4	友達の話に共感して励ますことができる２	文法（～もんじゃない、だけ）、チェック、まとめ問題
5	友達の話に共感して励ますことができる３	文法（～ばかりに、ことはない、にくらべて）、語彙（言い換え類義第１、２回）
6	友達の話に共感して励ますことができる４	文法（～ものか、というものよ）、チェック、語彙（言い換え類義第３～６回）
7	自分の状況や決意したことを友達に話すことができる１	文法（～ばこそ、ないことはない、だけ、もん）、語彙（言い換え類義第７、８回）
8	自分の状況や決意したことを友達に話すことができる２	文法（～わけにはいかない、のみだ、つもり）チェック、まとめ問題、語彙（言い換え類義第９，１０回）
9	レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる１	文法（～から見ると、一方で、ことから、のみならず）、語彙（用法第１、２回）
10	レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる２	文法（～といった、にしたがって）、チェック、語彙（用法第３，４回）
11	レポートや論説文の説明が理解できる１	文法（～得る、に反して、に関して、反面）、語彙（用法第５，６回）
12	レポートや論説文の説明が理解できる２	文法（～上、つつある、に限らず）、チェック、まとめ問題、語彙（用法第７，８回）
13	ビジネス場面で社外の人との簡単な受け答えができる	文法（お見えになりました、ご～願えます、ご～上げ、ばと思います）、語彙（用法第９，１０回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY!日本語能力試験N2　ドリル＆ドリル文字語彙
参考文献・資料等	なし
備考	なし

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語Ⅱ		（ NKT16B ）
講義名（コード）	ビジネス日本語ⅡE		（ NKT16BE ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	原　泰明	時間数	30
成績評価教員	原　泰明	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	将来日本で仕事に就きたいと考えている学習者が、社内外で遭遇するビジネスの場面において、良い人間関係を築きスムーズに業務を行えるようにすることを目的とする
全体の内容と概要	各課のN２レベルの新出語彙の意味・表現方法を学習し、会話、ロールプレイ、練習につなげる
授業時間外の学修	アルバイト先など実践で積極的に活用するように心がけてもらいたい。
履修上の注意事項等	「ビジネスコラム」を通じて、日本のビジネスマナーや習慣について学ぶ

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「注意する・注意を受ける」ができる２	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする 後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
2	「頼む・断る」ことができる１	頼む・断る際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、 モデル会話を理解する。
3	「頼む・断る」ことができる２	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
4	「許可をもらう」ことができる１	許可をもらう際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、 モデル会話を理解する。
5	「許可をもらう」ことができる２	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
6	「アポイント」をとることができる1	6課との区別をしながら許可をもとめる場面の違いについて理解する
7	「アポイント」をとることができる2	面識がある人、面識がない人にアポイントをとる
8	「アポイント」をとることができる3	提案する表現を学習する、約束を変更する表現を学習する。ロールプレイ
9	他社や企業に「訪問する」ことができる1	受付で取次を頼む、名刺をうけとる、名刺の受け取り方を学ぶ
10	他社や企業に「訪問する」ことができる2	丁寧な言葉で、その場を退出する表現を学ぶ
11	今まで学習した表現を使って会話できる1	インターンシップ参加の仕方、メールの出しかた
12	今まで学習した表現を使って会話できる2	面接時の立ち振る舞い
13	第１回～第１２回の復習	復習
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ビジネス日本語30時間
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策Ⅱ		（ NKT16D ）
講義名（コード）	日本語資格対策ⅡB		（ NKT16DB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	榊原　倫代	時間数	30
成績評価教員	榊原　倫代	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	前半：読解問題を解くためのポイント、新出語彙を学び、実戦問題を解く。 後半：聴解問題を解くためのスキルを学び、様々な形式の聴解問題を解き、解説を加える。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	文章の仕組みを理解するために文章の違う点を理解する1	読解：【対比】ほかのものと比べる1　聴解：実際の試験を理解する1 課題理解・ポイント理解
2	文章の仕組みを理解するために文章の違う点を理解する2	読解：【対比】ほかのものと比べる2　聴解：実際の試験を理解する2 概要理解・即時応答
3	文章の仕組みを理解するために言い換えについて学ぶ1	読解：【言い換え】　聴解：実際の試験を理解する3 統合理解
4	文章の仕組みを理解するために言い換えについて学ぶ2	読解：【言い換え】　聴解：音声の特徴に慣れる
5	文章の仕組みを理解するために何を何にたとえているかつかむ1	読解：【比喩】　聴解：即時応答のスキルを学ぶ
6	ＪＬＰＴ形式の問題を解くことができる。	JLPT模試 JLPT模試
7	ＪＬＰＴ形式の問題を解くことができる。	JLPT模試ＦＢ JLPT模試ＦＢ
8	指示語を指している言葉を説明できる。	指示語 ドリル＆ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や対象語を探すことができる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、文の内容を説明できる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	文の前後を見て、言い換えている言葉を見つけることができる。	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむことができる。	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くことができる。	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N2　完全マスター聴解N2
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナーⅡ		（ NKT16F ）
講義名（コード）	ビジネスマナーⅡF		（ NKT16FF ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	若林　繁実	時間数	30
成績評価教員	若林　繁実	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネスにおける基本的なマナーを習得し、自分の意思をうまく伝え、円滑なコミュニケーションが取れることを目的とする
全体の内容と概要	さまざまな状況に応じたマナーを学び、実践に生かす
授業時間外の学修	アルバイト先などでの実践練習
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション/「社内のマナー」が理解できる①	【講義】後期で習得すること、話を聞くとき、指示を受けるとき 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
2	「社内のマナー」が理解できる②	【講義】注意を受けたとき、退社時のマナー 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
3	「社内のマナー」が理解できる③	【講義】葬儀のマナー、贈答のマナー 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
4	「社内のマナー」が理解できる④	【講義】食事のマナー、お酒の席のマナー、コラム（たばこのルールとマナー） 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
5	「社外のマナー」が理解できる①	【講義】名刺の扱い方、仕事に役立つ雑談 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
6	「社外のマナー」が理解できる②	【講義】場所ごとの席次、案内と見送り 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
7	「社外のマナー」が理解できる③	【講義】お茶の出し方と飲み方、訪問のマナー 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
8	「社外のマナー」が理解できる④	【講義】営業活動、派遣・出向 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
9	ビジネススキルの基本を理解できる①	【講義】敬語の使い方、話し言葉と書き言葉 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
10	ビジネススキルの基本を理解できる②	【講義】漢字の使い方、ビジネスメールの形式 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
11	ビジネススキルの基本を理解できる③	【講義】ビジネス文書の形式、はがきと封筒の使い方・書き方 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
12	ビジネススキルの基本を理解できる④	【講義】電話を受けるとき、電話をかけるとき 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
13	後期に学んで理解したことをアウトプットできる	社内のマナー、社外のマナー、ビジネススキルの基本から各自学んだことを他者にアウトプットする。
14	前期末テスト	【前期末試験】前期に習得した内容についての筆記試験
15	フィードバック、まとめ	【前期試験フィードバック】テスト結果をフィードバック

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	JMAM 留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール
参考文献・資料等	
備考	適宜、理解を深めるためのパワーポイント資料を用意

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス英語Ⅳ		（ NKT24B ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅣB		（ NKT24BB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野　恵	時間数	30
成績評価教員	高野　恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、スピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	【海外出張】ホテルでのやり取りができるようになる	ホテルでのやり取りの仕方を学び練習する。
2	【海外出張】レストランで注文ができるようになる	レストランでの注文の仕方を学び練習する。
3	【海外出張】交通機関の利用・食事の買い出し等ができるようになる	交通機関の利用や食事の買い出しなどを練習する。
4	1～3回目 【海外出張】 の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	【打ち合わせ】商談を行えるようになる	商談の仕方を学びペアで練習する。
6	【打ち合わせ】お客様の予約を取れるようになる	お客様の予約の取り方を学びペアで練習する。
7	同僚とスモールトークすることができるようになる	同僚とスモールトークできるように練習する。
8	5～7回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	苦情を言うことができ、対処することができるようになる	苦情の伝え方と対処方法を学び練習する。
10	面接の対応ができるようになる	面接対応の仕方を練習する。
11	仕事を依頼し、支持することができるようになる	仕事を依頼し、指示できるようになる練習をする
12	9～11回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
13	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストＦＢ

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	新装版 即戦力がつくビジネス英会話
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語、Business as Usual
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TOEIC対策Ⅳ		（ NKT24D ）
講義名（コード）	TOEIC対策ⅣC		（ NKT24DC ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村　みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村　みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	基本的な英語の文法とコミュニケーション力を高めTOEICに備える
全体の内容と概要	文法・語彙・会話・リスニングを強化するための練習問題に取り組む
授業時間外の学修	自分の弱点を見つけ、それを強化するための問題をする
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	主語と動詞の関係を理解できる	Be動詞や三単現の動詞の変化に加えevery/each / a number of…が主語になった時の変化について学ぶ
2	リスニングに慣れる	会話の流れを聴きとる練習をする
3	助動詞の使い方を理解できる	助動詞やそれに準ずる have to/ be able to の使い方を学ぶ
4	リスニング問題に慣れる	短い簡単な文章のディクテーションをする
5	名詞・代名詞を理解し、使えるようになる	可算名詞・不可算名詞・代名詞を理解し実際に文章を作ってみる。
6	少し長めのリスニングに慣れる	長めの会話を聞く際に注意する点を学び、誰がどこで何をしたのかを聴きとる練習をする
7	形容詞・副詞の特徴を理解できる	形容詞・副詞の使い方を学ぶ　部分否定に慣れる
8	会話のリスニングに慣れる	会話・ショートトークを集中的に聞く練習をする
9	比較級・最上級を理解できる	比較級・最上級の構文を学び穴埋め練習問題に挑戦してみる
10	家事や日常生活に関するリスニングに慣れる	家事や日常生活に使う語彙や特別な言い回しを学んだ後リスニングをしてみる
11	接続詞の使い方や種類を理解できる	様々な接続詞を使って文章をつなげてみる
12	TOEICテストに挑戦してみる	リスニング・穴埋め・読解問題を通して解き、時間配分を考える
13	まとめ	復習・テストに備える
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	VERY EASY TOEIC 2　　Compass Publishing
参考文献・資料等	はじめて受けるTOEIC　TEST 模試スピードマスター
備考	